

〈全校研究主題〉

生き生きと学び続ける生徒の育成

～主体的・対話的に学びながら、一人一人が課題解決できる授業づくりを通して～

〈音楽科の生徒の実態〉

- 音楽活動に前向きに取り組むことのできる生徒が多い。
- 音楽を形づくっている要素を概ね知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取る力が備わりつつある。
- 楽曲を練習していく中で、「こんな風に歌いたい」という音楽を表現するための思いや意図をもつ力が弱い。
- 音楽を聴いて感じたことが雰囲気や感情などの感受したことについての意見のみになってしまい、音楽を形作っている要素を知覚し、知覚したことと感受したこととの関わりを考える力が弱い。

〈授業で生み出したい姿〉

〈主体的・対話的な姿〉

- *音や音楽に対して関心をもち、意欲をもって音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする姿。
- *創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱・器楽・創作で表している姿。
- *感じ取ったイメージや表現の工夫を〔共通事項〕と関わらせて探究する姿。

〈課題解決できる姿（深い学び）〉

- *音楽を形づくっている要素の特質や雰囲気を感じながら思考・判断し、思いや意図をもち、仲間と交流しながら音楽表現を工夫し探究し続ける姿。
- *音楽を形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、よさや美しさを味わって聴く姿。

〈音楽科研究主題〉

音楽のよさや美しさを感じ取り、思いや意図をもって仲間とともによりよい表現を探究し続ける生徒

〈研究主題設定の理由〉

音楽科では、音楽のよさや美しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成するため、導入時の課題づくりの場面をより充実させたり、生徒の思考や気付きを繋げる掲示を工夫したりする。

また、題材構想図の作成により、単位時間ごとの学習内容やつけたい力を明確にして指導にあたる。その結果、主体的・対話的に音楽を探究し続ける生徒が増え満足感を感じるとともに、もっとこうしたい、もっと上手になりたいという音楽に対する意欲へと繋がると考える。

本年度は上記研究主題達成のために、学び続けることを支える「思い」と「意図」をより自覚した学習内容になるように、活動や評価を工夫する。

〈研究内容1〉

「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫

- ・題材を通してつけたい力を「共通事項」を基に明確にしていき、学年に応じて自分たちの姿とも関わりあわせ、音楽とイメージや感情を自分たちの思いと関わらせながら、自分たちの思いを実現するための音楽を試行錯誤しながら作っていく。

〈研究内容2〉

一人一人が課題解決できる手立ての工夫

- ①一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫
 - ・題材を貫く課題を〔共通事項〕をもとに設定し、題材を通して何を学ぶのかを明確にする。
 - ・一時間の中で何を意識して取り組むのか、〔共通事項〕をもとに学習課題を焦点化して設定する。
- ②学びの状況を実感できる授業終末の工夫
 - ・活動の中で相互評価をする時間を設け、何に注目して評価するのか、聴き取るポイントを視覚化する。

研究の基盤（確かな学級経営と教科横断の共通指導、PDCA サイクルを意図した指導）

- ①互いに認め、高め合える学級集団の育成 ②生徒の自主的な活動の推進 ③基礎・基本の定着